

科目名	コミュニケーション論 Communication		担当教員 (研究室番号)	小池 敦 (510)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	1年次 前期	科目 区分	教養・基礎科目		選択 区分	必修	単位数 (時間)	2(30)	授業 形態	講義	科目等 履修生	否
											オープン クラス	否
科目 目的	コミュニケーションは社会生活を営む私たちにとって必要不可欠であり、特に、医療現場における患者-看護師関係では、コミュニケーションの重要性が指摘できます。この授業では、文化としての意味や自己概念の形成の側面、いくつかの視点からのモデル化、言語的・非言語的コミュニケーションの特徴など、コミュニケーションのさまざまな側面について理解を深めるとともに、コミュニケーションの大切さについて再確認を促します。											
ディプロマ・ポリシー (DP)	主要なDP	C 多様な考え方や文化的背景を持つ人々の特徴に応じて、自らの看護活動の必要性や方法を説明するためのコミュニケーション能力を有している。(技能・表現)										
	関連するDP	A 人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職としての倫理観に基づいて行動することができる。(姿勢・態度)										
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションに対して多角的な視野が持てるようになる。</li> <li>2. 自分自身や他者のコミュニケーション方法の特徴を知る。</li> <li>3. 医療者として期待されるコミュニケーションスキルについて知る。</li> <li>4. 自らのコミュニケーション能力を高める努力を継続できるようになる。</li> </ol>											
成績評価方法 (基準)	期末試験(100%) ただし、授業への積極的参加の様子などを加味する場合がある。											
再試験の有無と 基準等	科目合格結果で不合格となった者のうち期末試験での不合格者に対しては再試験を実施する。再試験は期末試験と同様に行う。											
教科書	篠崎恵美子/藤井徹也著 看護コミュニケーション-基礎から学ぶスキルとトレーニング-, 医学書院											
参考書等	必要に応じて適宜紹介する。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	コミュニケーションは自己を適切に表現する手段であるとともに、他者理解のためにも不可欠な技術と言えます。この授業では、知識を得るばかりでなく、日常生活の中でのコミュニケーションの大切さを意識することなど、実際の体験を通して理解を深めてほしい。なお、適宜ロールプレーを取り入れるので、積極的に参加してほしい。											
備考	一部、演習を取り入れ、ロールプレーなどを体験することで、コミュニケーション能力の向上を目指します。											
回	学習項目		学習内容					主担当 教員	授業 方法			
1回	イントロダクション		医療現場におけるコミュニケーションの役割について理解を深める。					小池	講義			
2回	コミュニケーションとは		コミュニケーションの定義、コミュニケーション・モデルなどについて学ぶ。					小池	講義			
3回	コミュニケーション成立の条件と動機		コミュニケーション成立の条件、コミュニケーションと動機の関係などについて学ぶ。					小池	講義			
4回	言語的コミュニケーション①		言語的コミュニケーションの定義、言語の特性などについて学ぶ。					小池	講義			
5回	言語的コミュニケーション②		会話の分析、言葉と人間関係などについて学ぶ。					小池	講義			
6回	言語的コミュニケーション③		受容的態度について学ぶ。					小池	講義			
7回	非言語的コミュニケーション①		非言語的コミュニケーションの特徴と機能などについて学ぶ。					小池	講義			
8回	非言語的コミュニケーション②		外見的特徴、身体接触などがコミュニケーションに果たす役割について学ぶ。					小池	講義			
9回	非言語的コミュニケーション③		身体動作、空間の利用などがコミュニケーションに果たす役割について学ぶ。					小池	講義			
10回	コミュニケーションと文脈①		対人文脈、自己開示と自己呈示などが、コミュニケーションに果たす役割について理解を深める。					小池	講義			
11回	コミュニケーションと文脈②		集団の中でのコミュニケーションについてについて学ぶ。					小池	講義			
12回	説得的コミュニケーション①		態度の変容過程などについての理解を深める。					小池	講義			
13回	説得的コミュニケーション②		態度の変容を促すための説得的コミュニケーションの技法などについて学ぶ。					小池	講義			
14回	看護とコミュニケーション①		医療者の言葉の意味について理解を深める。					小池	講義			

回	学習項目	学習内容	主担当 教員	授業 方法
15回	看護とコミュニケーション②	患者—看護師間の会話の特徴を理解するとともに、看護職者として期待されるコミュニケーション能力について理解を深める。	小池	講義

## 学 習 課 題

- 第2回課題（事前）：コミュニケーションの定義について調べておく。
- 第5回課題（事後）：自らの言葉遣いの特徴についてまとめておく。
- 第6回課題（事後）：日常生活場面で受容的態度を試み、その結果をまとめておく。
- 第7回課題（事前）：非言語的コミュニケーションについて事前に自己学習する。
- 第14回課題（事前）：コミュニケーションを用いた医療者の援助とはどのようなものか調べておく。

## 実務経験を活かした教育の取組